

【様式4】

令和5年度高根台公民館事業計画

1. 地域の状況

高根台公民館は平成8年5月25日、市内で24番目の公民館として、地域住民に待ち望まれて開館した。対象区域は高根台1～6丁目で、東西約1.8km、南北約0.8kmと東西に長く、管区内の一番遠い地点でも公民館から直線距離で1.4kmと管区は全て徒歩圏内といえる。中心となるのが高根台団地であり、その他の地域も住宅地と商業地である。

対象人口は令和5年4月1日現在、12,507人、世帯数6,709世帯で、人口の構成としては、65歳以上の人口は4,330人で割合は34.6%となり、市内全体24.0%と比較しても非常に高い割合で、高齢化が進んでいる地域である。

公民館は新京成線高根公園駅から徒歩2分と交通至便で、多くの市民に利用されている。

2. 地域の課題

- (1) 高齢化が進んでいる地域であることから、高齢期を豊かに生きるための学習の推進が必要である。
- (2) スマホ講座の受講希望やスマホコンシェルジュへの相談件数が多いことから、デジタルデバイス対策の推進が必要である。
- (3) 生涯学習に関するアンケート結果では、地域における心配なこととして、高齢者の孤立が高い地域であることから、交流機会の場の提供が求められている。
- (4) 生涯学習に関するアンケート結果では、学びの成果の活用に関して、「今は活かしていないが、今後活かしたいと思っている」割合が高いことから、地域人材を発掘するとともに活動につなぐためのコーディネート機能の強化が求められている。

3. 重点目標

- (1) 高齢者の関心が高い健康づくりに関する運動や学習の推進を図る。あわせて、リカレント教育など、多様な学習ニーズへの対応と充実した学習機会を提供していく。
- (2) スマホ講座の実施やスマホコンシェルジュの活用などにより、情報取得方法を学ぶ機会を積極的に提供し、デジタルデバイス対策を図る。
- (3) 公民館事業や団体活動への参加を促し、地域住民の交流機会を創出する。
- (4) 地域住民の持っているスキルを発掘するとともに、公民館事業での活動機会などをコーディネートする。
- (5) 創意工夫し魅力ある事業を展開するとともに、公民館が身近で使いやすい施設であることを実感していただけるよう、利用者に対し全職員が丁寧な対応に努め、新しい利用者層の開拓を図る。

- (6) 外国人住民が増加傾向にあることから、多文化共生のための学習を推進していく。あわせて多様な人々の生活習慣等の違いを知り、正しく理解するための事業を実施していく。
- (7) 町会・自治会をはじめ地区社会福祉協議会等、地域の諸団体の活動を支援し、地域社会の発展に寄与するとともに、協働で事業を行うことにより地域力の向上を図る。
- (8) 様々な事業を通して、学校教育と社会教育の連携をより一層深めるとともに、児童ホームとの連携などにより、次代を担う子供たちの体験を通じた成長や発達を支援する。また、子育てに関する学習、情報交換、交流の機会を提供し、子育て支援、家庭教育事業の充実を図る。
- (9) 地域の拠点として、他部局関係各課との連携・協働を推進し、多様な行政サービスを提供する。あわせて、防災拠点としての役割を強化する。
- (10) 基幹公民館として、ブロック内の連携を密にして広域的な事業を実施し、各館の施設・設備の適切な維持管理に努める。

【様式4】

令和5年度夏見公民館事業計画

1. 地域の状況

夏見は太古から水辺と緑地が豊かな住環境を生み、時代の変化を受け入れ新陳代謝を繰り返しながら発展してきた経緯があり、令和5年4月1日現在、人口27,708人（前年比63人減）、世帯数12,483世帯（前年比42世帯増）となっている。

また、管区内には130年超の歴史を有す八栄小学校、地域の手厚い見守りに支えられる夏見台小学校や伝統ある船橋中学校、さらに幼稚園、保育園も充実するなど、子育て世代が求める住環境が整っており、他地域と比較して同世代の人口割合が高い傾向が続いている。

なお、当館が一角に立地する日枝神社は嘗て伊勢神宮の荘園であり周辺は古代から近代までの遺構も数多く、一方で高度経済成長の象徴である団地が立ち並び、近代日本の発展を支えた企業宿舎跡には宅地開発が続くなど、自然と新旧が生活に調和する当地域は定住意識86%（R4都市マスタープラン）と非常に高く、地域への深い愛情や誇りを持つ人々も多い。

2. 地域の課題

- (1) 公民館区内の高齢化率が、他地域よりは緩やかではあるものの、年々高まってきている。
- (2) コロナ禍による活動休止中に高齢化が進み、未だ再開できない、更に解散に至る利用団体は社教団体を含め複数あり、将来に向けて本質を踏まえた改善検討、取り組みが必要。
- (3) 利用協役員の世代交代の時期を迎えているが、前項(2)の状況も影響し協調路線を保ちつつ牽引力ある人材を確保し継承することが困難になってきている。
- (4) 長らく有益な活動を続ける団体、個人、また、埋もれている才能は多くあり、協働、連携でより良い効果が期待できるにも関わらず、その土壌となる活躍の機会が限られている。
- (5) 管区内は地理的に高低差が大きく土砂災害警戒区域、土砂災害特別警戒区域の指定、ならびに洪水・内水災害の浸水想定区域が広がり、各自治会等の危機意識も非常に高く個々の取り組みも盛んだが、地域連携、協働には至らない現状解決を切に願う声が伝えられている。

3. 重点目標

- (1) 最も身近な公共施設として求められる姿を意識し、常に地域住民に寄り添った運営に努める。
- (2) 希薄化したコミュニティのハブとなって結びつきを強める機会の創出に努める。
- (3) 地域の特色ある背景を意識し、安心安全な住環境の充実に寄与し、防災減災を実践し広く普及する取り組みを継続して行う。
- (4) コミュニティとの関係をより密にとり、地域の資産、才能の活用に努める。
- (5) 参加が想定される対象者が求める機会、利便、手法を把握し念頭に置いた事業設計に努める。
- (6) 人生100年時代を生き抜く力を養う機会を提供する。
- (7) デジタルデバイド対策に関する事業を実施し、年齢や環境による情報格差の縮小に努める。

【様式4】

令和5年度高根公民館事業計画

1. 地域の状況

高根公民館の管区は高根町・金杉町・金杉・金杉台・緑台からなり、面積は約4.3㎢で、令和5年4月1日現在の船橋市年齢別人口統計によれば、人口15,464人、世帯数7,699世帯である。

地域は船橋市のほぼ中央に位置し、市街化区域と市街化調整区域が混在しており、豊かな自然が現在も残されている。

この地域には縄文時代の上高根貝塚、弥生時代後期の立場遺跡、室町時代後期の高根城跡などがあり、古く歴史のある地域である。昭和12年の2町3村(船橋町・葛飾町・八栄村・法典村・塚田村)の合併により市制が施行される以前は旧八栄村の一部であった。

昭和46年8月に金杉台団地、同年10月に船橋グリーンハイツの入居が開始され、一時期は地域の人口が急激に増えたが、現在は少子高齢化が進んでいる。

2. 地域課題

- (1) 地域の青少年に公民館をより多く利用してもらうために、今まで以上に青少年の事業の充実を図っていく必要がある。
- (2) 社会教育関係団体の会員の高齢化や減少による解散が増えていることから、団体の活性化や支援を図る必要がある。
- (3) 地域住民が新たに始めたい学習として、健康・スポーツ・趣味・教養などがあがっている。このような多様なニーズに対応した学習の機会を提供していく必要がある。(生涯学習に関するアンケート p58)
- (4) 地域住民の高齢化率が37.1%と市全体の24.6%と比べて高く、今後も高齢化は進んでいくだろうと思われる。加えて近年の新型コロナウイルス感染症対策(三密を避ける、不要不急の外出はしない)でコミュニケーションがとれない状況が生まれている。それに伴い孤立しがちな高齢者に生きがい、仲間づくり、健康増進の場を提供していく必要がある。(生涯学習に関するアンケート p91)

3. 重点目標

- (1) 地域コミュニティの拠点として、誰もが気軽に集うことができる親しみやすい公民館を目指す。
- (2) 学校・青少年育成団体・地区社会福祉協議会・児童ホームなど各種地域団体と連携し、青少年の健全育成を目指す。
- (3) 高齢者の生きがい、仲間づくり、健康づくりを推進する。地域の特性・住民のニーズを把握し、現代的課題や地域課題に対応した事業を展開し、学習の機会と交流の場を提供する。ま

- た、様々なライフステージに応じた事業を展開し、日常生活の充実や向上を図る。
- (4) 社会教育関係団体の活動を支援し、サークルの活性化・維持発展に努める。
 - (5) 地区自治会連合会等との事業の連携・協力において、地域住民の結びつきをより一層強くし、地域社会の発展と地域力の向上に努める。
 - (6) 館報「たかね」の発行やホームページを活用し、公民館の活動や運営に理解を得るとともに、情報を提供する。
 - (7) 利用者の安心安全を確保するために、施設・設備・備品等の保守管理・運営に努め、利用環境を補助する。また、非常時に迅速に避難所運営ができるよう日頃から備えておく。

【様式4】

令和5年度新高根公民館事業計画

1. 地域の状況

新高根公民館の対象地域は、市の中部地区に位置する新高根1～6丁目、芝山1～7丁目、高根台7丁目である。面積は、約2.5km²、対象人口は令和5年4月1日現在、27,694人、世帯数13,525世帯で、閑静な住宅地域である。

人口の構成としては、令和5年4月1日現在、65歳以上の高齢化率が約31.1%と市全体の約24.0%を大きく上回っている。現在も少子高齢化が進んでおり、今後ますます進むことが推測される地域である。

こうした状況を踏まえ公民館の対象地域では、自治会町会、地区社会福祉協議会が中心となり、課題解決につながる活動や地域住民同士の仲間づくりや健康づくり、生きがいくりにつながる活動などが活発に行われている地域である。

2. 地域課題

- (1) 公民館区内に土砂災害危険個所があり、地域の災害に対する懸念が強い地域であるため、地域の防災意識の高揚を図り、防災体制の確立が必要である。
- (2) 未就園児等の保護者が交流できるよう児童ホームと連携し、安心して子育てができるための情報発信と保護者同士が交流できる場の提供が求められている。
- (3) 地区高齢者の運動機能低下者の割合は低い。一方で、高齢者の独居世帯などといった孤立化に対する懸念は市内でも高い状況となっている。
- (4) 地域において「人と人とのつながりが薄い。」と感じている方の割合が高く、他人との交流の場の提供が求められている。

3. 重点目標

- (1) 地域コミュニティの拠点として、誰もが親しみやすく、地域に密接した公民館を目指す。
- (2) 地域の町会・自治会、地区自連や関係諸団体、また、行政等が行うイベント等に積極的に協力し、地域と連携した公民館運営に努める。
- (3) 地域の町会・自治会、地区自連やNPO団体等の協力のもと、地域住民と一緒に防災計画を考えて意識の高まりを図るため、より多くの世代が参加しやすい内容の防災事業を実施していく。
- (4) 社会福祉協議会や子育てサークルと連携しながら、若い世代の要望意見を取り入れた子育て事業の充実を図る。
- (5) 高齢者が継続的に健康づくりに取り組める事業だけでなく、講座内での交流を目的とした事業やサークル化を促進する取り組みも行い、明るい地域づくりに貢献していく。

(6) 公民館報やホームページ等を活用し、公民館の講座・イベント等やサークル活動、地域活動などの発信を行い、公民館の充実を図ると共に若い世代や普段、公民館を利用されたことのない人達も公民館を利用してもらえるような取り組みをする。